

早生樹センダンの育苗技術

1 背景・目的

主伐・再造林を進める上で、育林期間の短い早生樹が求められている。広葉樹センダンは成長が早く早生樹として期待されているが、県内における苗木育成の知見がない(写真1)。そこで、苗木育成技術の確立を目指し、県内に生育するセンダンから採取した種子を用いて育苗試験を実施する。

2 技術のポイント

- (1) 果実は10~12月頃黄褐色に熟したものを使用する。果肉のままでは腐敗しやすく発芽が遅れるため、果肉を取り除き、すぐに播く(写真2)。
- (2) 発芽後、早い時期に床替えする。根の成長が早いので、径135mmポットより大きなポットを使用する。
- (3) 床替え後ガラス室で約1年間育苗すれば、苗高40cm以上が8割近く、50cm以上が半数できる(写真2、図1)。



写真2 センダンの果実、核、1年生苗
 上：12月中旬に採取した果実
 下：果肉を取り除いた核(1~6個の種子を含む)
 右：1年生苗(苗高73cm、根元径5.5mm)

写真1 センダン成木の樹形(上)と幹(下)
 樹高：18.5m
 胸高直径：54.7cm

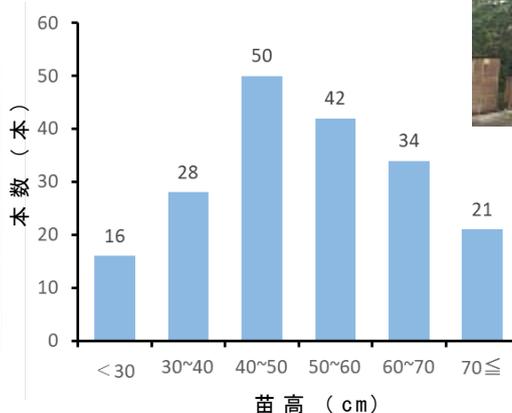


図1 苗高別苗木本数

3 成果の活用と留意点

- (1) 水分要求度が非常に高い樹種であるため、灌水を十分に行う必要がある。灌水施設のない屋外では特に注意が必要である。
- (2) 育苗期間中、枝を四方に大きく広げるため、葉が重なり合わないよう生育に応じた苗木間隔を確保する必要がある。

問合せ：森林環境部 TEL 076-272-0673

担当者：富沢裕子・千木 容